

BN ews

2011.Spring

【特集】

1. 別府大学の挑戦 地域連携 (2)1-2
2. 食物栄養科学部創立10周年に向けて.....3-4

contents

- 教育CloseUp5-6
- 研究者インタビュー
林 毅・高濱 正文7-8
- 国際交流9
- いきいき別大生10
- がんばってます留学生11
- 学園を支えていただいた方々12
- 後輩への言葉13
- 学園News14-17
- 新聞掲載記事18



[Ruined house] 安倍沙保里 キャンバス・油彩 F100

特集1 別府大学の挑戦 地域連携（2）

学生による地域貢献活動

別府大学と別府大学短期大学部は大分の「地元の大学」として、長年にわたり地域とともに歩んできました。本学は現在、県内12市町村と交流協定を結び、大学の知的資源を地域の振興に役立てています。また、本学学生も積極的に地域と交わり、地域貢献活動やボランティア活動を行っています。ここではその代表として別府大学文学部人間関係学科の学生による別府BBS会の活動、別府大学短期大学部地域総合科学科の学生による地域行事への協力活動をご紹介します。

別府BBS会によるボランティア活動（別府大学）

別府BBS会会長の真部愛美さん（人間関係学科1年）と副会長の泉菜穂子さん（同学科1年）にお話をうかがいました。



真部さん（左）と泉さん（右）

－別府BBS会はどのような組織ですか？

人間関係学科の学生を中心とした学生ボランティアサークルです。日本BBS連盟という全国規模の社会福祉ボランティア団体があり、別府BBS会はその別府支部として法務省の保護観察所の支援などを受けながら活動しています。現在、男性15名、女性21名の合計36名の会員がいます。

－BBSとは？

Big Brothers and Sisters Movementの略称です。子どもたちの



WAKUWAKU IN 上人にて

身近な「兄」や「姉」として一緒に遊んだり相談にのったりしながら、その成長をお手伝いするという意味が込められています。

－具体的な活動を教えてください

定期的な活動として、日出町と杵築市で行っている「不登校児支援スポー

ツ指導員活動」、別府市で行っている「児童養護施設学習指導活動」、地元で別府市上人地区の子どもたちを対象にした「WAKUWAKU IN 上人」の4つを行っています。これ以外に不定期の活動もあります。

－それぞれ詳しく教えていただけますか

日出町と杵築市の「不登校児支援スポーツ指導員」では、毎週水曜の午後に、不登校の小・中・高校生と一緒にバドミントンやバレーなどのスポーツをしたり、トランプや将棋、釣りなどをして遊んだり、勉強をしたりしています。児童が心と身体を休め、リフレッシュできる活動が基本です。

別府市の「児童養護施設学習指導活動」では毎週木曜の夜に、施設の中学生を対象に学習指導を行っています。学生ごとに担当の児童を決め、1年間責任を持って指導するように心がけています。

地元上人地区の「WAKUWAKU IN 上人」では、月2回第2と第4土曜の午後に子どもたちを公民館に集めて前半に勉強、後半にレクリエーションや工作を行っています。内容は時期や人数を考慮して毎回工夫しています。

－かなりの活動量ですね。不定期の活動はどのようなものですか

いろいろな施設や団体から要請があり、多いときには月に4、5件になることもあります。例えば今年度の夏は、2つのキャンプのお手伝いをし、障がいのある子どもや健常児たちと一緒に過ごしました。

－活動をしてみたいかですか？

子どもたちと関わるのは楽しいです。また、いろいろなボランティアに参加させていただきとても勉強になります。施設を訪問すると向こうから笑顔で話しかけられたり、ありがとうと声

をかけていただいたりします。それがとても嬉しいです。

－BBS会に参加したきっかけは？

最初は軽い気持ちで話を聞きに行きました。ボランティアサークルというこ



WAKUWAKU IN 上人にて

とで固いところかなと思っていたのですが、実際に先輩に会ってみると個性的で楽しい方ばかりだったので参加してみることにしました。今は参加して本当に良かったと思っています。

－それにしても会長・副会長が1年生なんですね！

昨年の12月に会長・副会長を引き継ぎました。人間関係学科は3年生になると資格取得のための勉強が忙しくなります。そのため2年生が活動の中心を担っています。

－後輩にひと言をお願いします

友人や仲間が増え、数多くの施設や団体の方との友だちの輪が広がります。人間的に成長できる、とても楽しいサークルなのでボランティアに関心のある方は是非参加して下さい。お待ちしております！



週1回の例会風景（別府大学にて）

地域行事への協力（別府大学短期大学部）



尾上さん

由布市のき
ちょくれ祭りや
大分市のおおい
た夢色音楽祭の
ボランティアに
積極的に参加し
てきた尾上純也
さん（地域総合

科学科2年）にお話をうかがいました。

ー地域の祭りに協力されたと聞きました

大分キャンパス近くの旧挾間町で毎年11月に「きちょくれ祭り」が行われています。短大の地域総合科学科では、1年生を中心に約50名の学生が毎年主催者側の一員として参加し、イベントや運営の一部を担わせていただいています。

ー学生が主体の行事もあるわけですね

あります。ステージイベントの1時間は完全に短大の学生が企画し、運営します。短大の中に実行委員会を作って企画を話し合い、今年度はお客さんが参加できるイントロ当てクイズ、中国からの留学生による演舞を実施しました。



きちょくれ祭りにて

ー準備が大変そうですね

お客さんは子どもからお年寄りまでいますから、年代で偏りが出ないように選曲に配慮が必要です。いろいろな人に相談し各年代の曲を調べてCDを編集しました。

ーステージイベント以外では？

会場内の催しも2、3受け持ちます。今年度はダーツやヨーヨー釣りを企画し、子ども用のエアートランポリンも受け持ちました。子どもたちが喜んでくれて大成功でした。



きちょくれ祭りにて

ー運営面ではどのような役割を？

学生に任されるのは、ゴミの分別、駐車場の誘導、トイレの見回りです。ゴミの分別は、会場のすべてのゴミを分別して収集担当に渡す役割です。駐車場では、3カ所すべての駐車場の誘導を任されました。

ー参加していかがでしたか

非常に勉強になりました。人と関わること、組織で働くこと、お客様とのコミュニケーション、すべてがよい経験でした。正直、最初は不安や面倒という気持ちもあったけれど、任せただいたぶん責任とやり甲斐があり、達成感が非常に大きかったです。この経験は就職活動でも大いに役立ちまし

た。

ーおおいた夢色音楽祭にも参加されたとか

おおいた夢色音楽祭はまだ3回目の若い行事で、大分市中心部の28カ所のストリートステージで様々なパフォーマンスが行われます。今年度、地域総合科学科の2年生を中心とした約50名の学生が、はじめてスタッフとして参加しました。

ーどのような役割でしたか

来場者の案内、瓦版（チラシ）の配布、ガンザという手作り楽器の販売などです。スタッフの多くは大分市職員の方々です。この音楽祭も楽しく、勉強になるものでした。

学科では、音楽祭終了後、各自の経験をプレゼンで発表しました。ボランティアに参加した全員が、それぞれ貴重な経験を得ていたようです。

ー4月からいよいよ社会人ですね

はい。人とのコミュニケーション、仕事を進めるための段取りなど、学んだことを職場でも生かしていきたいですね。社会人になってもボランティアは続けていくつもりです。



おおいた夢色音楽祭にて

学生による地域貢献活動の様々な取組（※上述以外のもの）

大 学

- ・棚田づくりプロジェクト
- ・別府冬祭祭での学生と障がい者の協働
- ・大分市竹町商店街での路上マンガプラザ
- ・ふうせんバレーボール競技での審判ボランティア
- ・地元自治会と学生による「鬼の岩屋祭り」
- ・大学周辺での防犯パトロール など

短 大

- ・別府クリスマスファンタジア
- ・「クリスマスソングを1000人の子ども達と歌う会」
- ・大分市植田地区の「わっしょい!子ども夏祭り」
- ・子育てネットワーク大分集会IN湯布院
- ・「子どもっとランド」（大分合同新聞社との共催）
- ・別府・音泉タウン音楽会ボランティア
- ・高崎山自然動物園のボランティア など

特集 2 食物栄養科学部創立 10 周年に向けて

食物栄養科学部の これまでの歩み

食物栄養科学部

学部長 江崎 一子



昨年（2010年）、別府大学は創立60周年を迎えました。創立以来、建学の精神を柱に「真理を愛し、自由を尊ぶ、真の教養ある人間を育てる」教育をめざし、文学部のみの単科大学として発展してきた別府大学に、2番目の学部として食物栄養科学部が誕生して今年で10年目となります。

当初（2002年）は学部名を食物栄養学部、学科は県下唯一の管理栄養士養成施設である食物栄養学科の単学科で発足しました。2006年3月に第1期生を社会に送り出して以来、食物栄養学科では、今年3月卒業の第6期生まで含め400名余が巣立っていったことになります。毎年、卒業生は管理栄養士、栄養士、食品衛生管理者等の資格を生かした専門職の道に進むものが多く、病院、福祉施設、行政、食品関係の企業などに就職しています。

2006年4月には、大学院食物栄養科学研究科食物栄養学専攻修士課程と、かねてから卒業生や地元企業人から要望の

あった食物の生産・製造に、新しい生命科学の手法を応用した専門知識・技能を備えた人材養成を行うことを目的とした食物バイオ学科が設置され、同時に、学部名も食物栄養学部から食物栄養科学部に名称変更しました。これを機に、管理栄養士等に必要な知識、技術に加えより高度な食と栄養の専門知識と技術をもつ人材の育成、およびバイオテクノロジーを取り入れた研究、生産技術の開発の方法などを学び地域の食産業の発展に貢献できる人材の育成をめざした新たな学部・研究科としてのスタートを切ることとなりました。

食物バイオ学科は2009年4月に発酵食品学科に名称変更し、発酵テクノロジーを駆使した食、栄養、健康、環境浄化の分野に貢献できる人材の養成に力を入れています。さらに2011年からの学年進行や将来設計に合わせて多角的に学ぶことのできるよう、発酵食品コースと食品流通コースの2つのコース制を導入します。昨年3月、第1期生が社会に巣立ったところですが、就職は希望者のほぼ全員が卒業時までには内定しました。大手醤油醸造会社、地元大手酒造会社、福岡検疫所などそれぞれが希望した分野で、製造、品質管理、分析検査、食品開発などの専門を生かした仕事に就いています。

来年10周年を迎える食物栄養科学部は、これからも21世紀の豊かで安心できる社会の実現に貢献できる食と健康のスペシャリストの人材育成に真摯に取り組んでまいります。

食物栄養学科の最近の動き

地域貢献

親子料理教室の開催

食物栄養学科では2008年度から、地域の園児・児童と保護者の皆さんを対象に、料理を作る楽しさを知り、「食」に関心を持っていただくために、郷土料理、魚のさばき方、「お昼はまかせて!」、「手作りクリスマスメニュー」のようなテーマで、地元の食材を使った料理教室を開催しています。調理をする子どもたちの目は真剣そのもの。「こんな郷土料理があるなんて知らなかった」「家で子どもが調理をするようになった」「料理を介して、子どもとの会話が多くなった」「嫌いなものが食べられるようになった」等々の感想が寄せられています。これからも「食」に目を向けるきっかけとなってくれればと、期待しています。



研究活動

食品成分の機能を 科学する

木村靖浩准教授の研究室では食品成分が身体の生理機能にどのような影響を与えるかを主に実験動物を使って研究しています。最近、学生とともにかつお節に含まれる旨味物質のイノシン酸がマウスの食後血糖の上昇を抑制することを発見しました。これは今までに報告のない新しい発見です。今後はその作用メカニズムの解明と、イノシン酸が糖尿病発症の予防に有効であるか、さらに発症後の病状緩和に有効であるかを研究し、将来的には臨床応用につながる研究に発展させたいと考えています。



就職

食物栄養学科の2009年度卒業生の進路は管理栄養士41%、栄養士15%、一般企業10%、進学（大学院、専門学校）8%、教育4%、医療・福祉系3%、サービス業3%、その他16%となっています。前年度と比べてもそれほど大きな違いはみられません。管理栄養士としての主な就職先は、国立熊本再春荘病院、湯布院厚生年金病院、佐賀関病院、ケアセ

ンター泰生の里、大分県学校給食会、日清医療食品、富士産業、森永食研、Nフードサービスなどでした。なお、ここ数年、卒業生が大分県、宮崎県、豊後大野市、別府市などの行政栄養士に採用されています。

発酵食品学科のこれまでの活動

教育活動

本学科の学生も参加している小判大豆プロジェクトは、大学・企業・市が連携し、竹田市のほとんど栽培されなくなっていた在来種の地大豆を復活させるというものです。種まき（写真）、製造などの過程に学生が参加し、最終的にデパートで製品販売（写真）まで行いました。学生が関われる部分はわずかもしれませんが、作物栽培、食品流通、開発、販売など、食品をめぐる多角的で幅広い側面を経験することは、社会の中で「食」がどのように成り立っているのかを知る大変良い機会となっています。

今春からは、食品の専門知識をもつ食品流通のスペシャリストを養成するために食品流通コースを新設し、研究開発や製造だけでなく流通や販売の分野の知識も身につけることができるような教育を行っていきます。



小判大豆の種まきの様子



デパートでの製品の販売の様子

地域貢献

大分県唯一のバイオ系大学ということから、文部科学省が未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして指定しているスーパーサイエンスハイスクール（現在は大分県立舞鶴高校）での指導など、県下の様々な教育の現場で、バイオテクノロジーや生物学等に関するの出前授業や実験を行っています。一般市民を対象とした講演会も定期的に行っており、特に本学科の客員教授で、発酵の伝道師として有名な小泉武夫教授の講演会は、御好評を頂いております。

また、愛媛県の企業でのタイの魚醤作り、湯布院のチーズ工房での新しいチーズの開発など、地域企業の製品開発への協力や、大分県に多く自生する竹を微生物の力でバイオエタノールに変換し、竹を資源として有効活用する大分県との連携事業での試みも行われています。



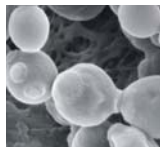
別府大学客員教授小泉武夫先生の講演会

研究活動

学科の大きなプロジェクトとして、平成19年度より三和酒類株式会社（いいちこで有名）と共同研究を行っています（写真）。本学科教員と三和酒類の研究者が、お互いに知識や技術、設備を提供し合い、食品とバイオテクノロジーに関する共同研究を展開しています。これまで自然環境中から600種以上の酵母菌（写真）の単離に成功し、この中からおいしいお酒や食品を生産する菌を探したり、また酸素が多い環境下ではエタノールを生産できないとされていた、これまでのエタノール発酵の常識をくつがえす新機能のエタノール発酵微生物を発見するなど、これらに関する学会発表、論文発表、特許申請等の成果が得られています。



別府大学と三和酒類株式会社との共同研究調停式



酵母菌の電子顕微鏡写真

就職

本学科では、実践を重視したカリキュラムを組んでおり、豊富な学生実験、3週間の企業実習、実際の企業での食品製造実習等を行っています（写真）。その甲斐あって、授業の一環である企業実習（写真）の中で仕事ぶりが認められて内定を決め、厳しい就職戦線を勝ち抜いた学生もいます。就職難の中、1期生の就職率は93%、さらに厳しいと言われている今年度2期生も全国平均を保つことができそうです。就職先の約9割は食品会社です。職種としては、品質管理職、製造職、研究・開発職が主となっています。主な就職先は、萱島酒類、四ツ谷酒造、宮島醤油、クロレラ本社、花屋本店、一番食品、四国コカコーラプロダクツ、JAフーズ大分、菊家、味香り戦略研究所、厚生省福岡検疫所（臨時）などです。2期生には大学院（別府大学（食物栄養）、九州工業大学（生命工）、大分大学（医））に進学する学生もいます。



ワイン製造実習の様子



酒造会社への企業実習の様子

別府大学・別府大学短期大学部の実学教育 (1) 大学の免許・資格教育

平成22年度に、別府大学は創立60周年を迎え、短期大学部は58年目を迎えました。この間、両学とも「真理はわれらを自由にする」という建学の精神のもとで、「真理の探究」と「人間性の陶冶」を理念とする教育を実践してきましたが、一方で社会や地域に貢献できる人材を養成するために、免許・資格にかかる実学教育も並行して展開してきました。本学は教職課程、学芸員課程、司書課程、文書館専門職員養成課程を設けるほか、さまざまな免許・資格を取得するためのカリキュラムを備えています。今回はこのうち大学の免許・資格教育についてご紹介したいと思います。

1 教職の免許

本学は創立（1950年）間もない1954年（この年男女共学となり、「別府大学」と改称しました）に、いち早く国語と英語の高校2級・中学1級の教員免許が取得できる課程として認可を受けました。その後、史学科（1963年）、美学・美術史学科（1973年）、文化財学科（1997年）人間関係学科（2000年）、食物栄養科学部食物栄養学科（2002年）、食物バイオ学科（2006年）、国際経営学部国際経営学科（2009年）の開設に伴い、関連する教科の教員免許が取得できるようになりました。現在、取得できるのは、高校の国語・英語・地歴・書道・美術・公民・福祉・理科・情報・商業、中学校の社会・美術・理科の1種免許状及び栄養教諭1種免許状です。さらに、大学院の開設によって、現在、国語・地歴等は専修免許を取得できることとなりました。免許取得者で教員に採用された者も多く、平成22年度現在で大分県内の高校に勤務する常勤の教諭だけでも23名に上ります。

2 学芸員の資格

本学は1963年に史学科を開設すると同時に、学芸員の養成を始めました。以来、およそ50年にわたり、史学科、文化財学科（現在の史学・文化財学科）、芸術文化学科（現在の国際言語・文化学科）を中心に40,065名の学生が学芸員の資格を取得しました。この資格を生かし、文化財関係の公務員や博物館・資料館の学芸員に採用された者は、西日本の各県・市町村を中心におよそ400名に上り、現在、教育委員会の幹部や第一線の職員として活躍しています。九州のほとんどの県・市町村において、本学の卒業生が文化財関係の仕事に携わっているといっても過言ではありません。

3 司書および司書教諭の資格

本学は1968年から司書の養成課程を設け、現在まで3,355名の学生が資格を獲得しました。また、現在、学校図書館に従事する司書教諭資格も取得でき、2004年に学校図書館における司書教諭の設置が促されて以降、両方の資格を取得す

る学生も増えてきています。本学では、この司書課程における資格教育とは別に、文部科学省から委嘱された司書・司書補講習会を、1961年以降ほぼ毎年開催し、本年度で49回を数えます。この講習会の修了者は9,000名を越え、司書課程で資格を取得した卒業生とともに、全国各地の公共図書館や学校図書館で活躍しています。

4 文書館専門職員の資格

本学では2004年から文書館専門職員（アーキビスト）の養成を始めました。アーキビストは国や地方自治体の公文書館で働くための新しい資格として、今日注目されていますが、本学は全国に先駆けてその養成に取り組みました。現在に至るまで、59名の学生が資格を取得しており、資格を生かし各地の公文書館で活躍する者も出てきています。

5 社会福祉士、精神保健福祉士および臨床心理士の受験資格

本学は2000年に人間関係学科を開設し、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験受験資格が取得できる体制を作りました。また、当学科では認定心理士資格も取得でき、また2004年に大学院に臨床心理学専攻を開設することによって、臨床心理士の受験資格が取得できるようになりました。人間関係学科では卒業生のおよそ30%がこのような資格を生かし、保健・医療関係の仕事に従事しています。また、毎年、臨床心理士の資格取得者を輩出し、カウンセラーとして活躍しています。

6 管理栄養士の受験資格

本学は2002年に食物栄養学科を開設し、栄養士の資格とともに管理栄養士の国家試験受験資格が取得できる体制を作りました。管理栄養士の合格率は年々向上し、現在では75%を越えています。毎年、30名から40名の学生が管理栄養士の資格を取得し、九州各地の自治体や学校・医療機関などに就職し活躍しています。

以上に紹介した免許・資格のほかに、人間関係学科では社会調査士・社会教育主事（任用資格）・社会福祉主事（任用資格）、食物栄養学科では食品衛生管理者（任用資格）・食品衛生監視員（任用資格）・フードスペシャリスト（受験資格）などの資格にかかる教育を行っています。また、2009年に開設した国際経営学科では、税理士や中小企業診断士の受験資格取得に向けた教育が行われています。

別短にしかないっ！ 「研究会活動」で学生生活が充実！

初等教育科・保育科の 「研究会活動」って？

別府大学短期大学部の初等教育科と保育科では、授業以外の学習の場として「研究会活動」に取り組んでいます。研究会活動の指導教員のお一人である中山先生に詳しくお聞きしました。



－研究会活動はどのようなものですか？



簡単にいえば、よりよい保育士・幼稚園教諭・小学校教諭になるための実践的な能力を高める活動です。各教員が専門分野を生かして研究会(研究サークル)を作り、学生が興味のある研究会に自発的に参加するというスタイルで活動を展開しています。

－具体的な活動を教えてください

手遊び、絵本の読み聞かせ、人形劇、パネルシアター、屋外キャンプ、オペレッタ、授業教材研究など保育・教育現場で実践できる活動が基本です。実際に、地域のイベントや保育・教育現場で披露(実践)するために、学生が主体となって練習(研究)しています。

－研究会の良いところは？

第一に子どもと触れあえることです。研究会では保育園や幼稚園で活動することが多く、学内の授業では知ることのできない子どもの反応を直に知ることができます。

二つ目に仲間ができることです。学生同士で作品を作り上げ、活動を共にすることによって深い絆が生まれ、学生生活がより充実したものになること間違いなしです！

－その分学生は忙しくなるのでは？

当然忙しくなります(笑)。活動に伴う苦労や悩みもあるでしょう。でもそれがあるからこそ、達成感が得られ、感動で涙を流す学生もいますからね。中には、体育会系の部活をしながら、研究会にも入って、バイトまでこなしている学生もいます。やれないことはありません。要はやる気です！

－熱いですね(笑)。最後にメッセージを。

これだけ充実した研究会は別府大学短期大学部にしかありません。保育士や教員免許は他の大学でも取得できますが、より現場で役立つことを学びたい人はぜひ別短へ！待ってます！



研究会と指導教員

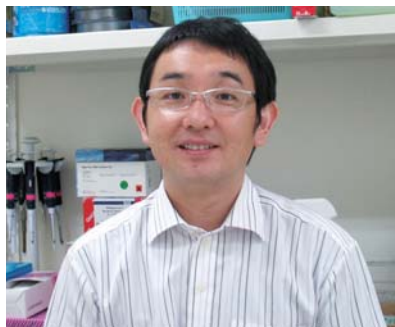
研究会	指導教員
表現遊び研究会	仲嶺まり子
パネルシアター研究会	佐藤慶子
人形劇研究会	高濱正文
幼児Canぶ研究会	神田亮
ふれあい遊び研究会	中山正剛
授業研究会	小野善寛
手作りおもちゃ研究会	伊藤昭博
絵本研究会	江良愛子
外国文化研究会	八幡雅彦・師子鹿元美
エブロンシアター研究会 (こどもことば研究会)	菅裕子

先輩たちの声

- ★上下の繋がり、横の繋がりも広がる。他クラスに友だちができ、大学生活が一層楽しめる。
- ★仲間と一緒に作り上げてきたものを園への訪問の際に達成することができたときの喜びは素晴らしいものです。
- ★就職活動をはじめて、保育園側とやりとり(面接や履歴書など)をするときに、かなり役に立ちました。改めて研究会活動をしていてよかったと思いました。
- ★私は2年になって入って、1年の時から入っていた人はこんな経験をいっぱいしていたんだと思い正直ちょっと焦りました。入らないともったいないです！

vol.3 林 毅

食物栄養科学部 助教（発酵食品学科）



微生物の生命現象を研究し、その可能性を探求している林先生。発酵食品から環境問題まで幅広く話をうかがいました。

未知の能力をもつ微生物を発見したい

一 発酵食品とはどのようなものですか

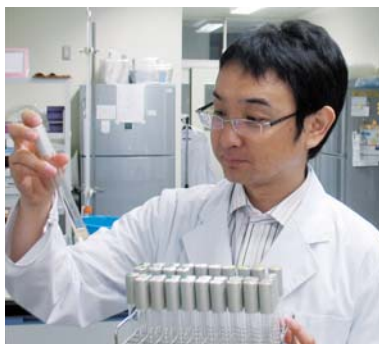
微生物の働きを利用して作られる食品のことで、お酒、ワイン、醤油、味噌、チーズ、ヨーグルト、納豆、漬物など身近にたくさんあります。発酵食品には、もとの食材にない美味しさや栄養価があります。発酵食品なしに私達の食生活は成り立たないと言えるでしょう。

一 ご専門の生化学はどんな分野ですか

少し難しくなりますがいいですか（笑）。生化学は生命現象を化学で解明する学問分野です。生命現象は物質的には生体内の化学反応として説明できます。つまり、生物の中でどのような化学反応が起こっているかを知ることができれば、生命現象の様々なメカニズムが理解できるというわけです。

一 生化学で発酵食品のメカニズムが理解できるということでしょうか

発酵食品の理解に生化学は欠かせません。例えば、お酒はお米を発酵させて作られます。そのプロセスは、麹菌や酵母菌などの微生物が、お米のデンプンを糖に分解し、糖をアルコールに分解するというものです。発酵は、微生物の内部で起こる化学反応そのものなんです。



一 お酒も味噌も微生物がつくる

そうです。微生物、米などの食材、水、そして微生物が好む温度や湿度。そういったものがハーモニーを奏でお酒や味噌は生まれます。そのメカニズムを理解し、上手にコントロールすることによって、さらにおいしいお酒や味噌の製造が可能になるわけです。発酵食品学科では、おいしいお酒を生み出す酵母の研究も進んでいますよ（笑）。

一 いいですね。生化学を志した理由は

生き物が大好きだったからです。福岡の海辺で育ち、子どもの頃は釣りや昆虫採集に夢中でした。中学生のときに、地球の温暖化やオゾンホールの問題などを知り、非常にショックを受けました。その頃から自分も環境問題を解決する仕事がしたいと考えるようになりました。

一 最初は環境問題に関心があった

今も環境問題には関心があります。ガソリンの代替エネルギーとして注目されているバイオエタノールを、微生物の働きを利用して生産することも研究テーマの一つです。

一 微生物でエネルギー問題に貢献する

微生物は大きな可能性を秘めています。微生物が理解できれば、環境問題や医薬品など、発酵食品以外にもさまざまな研究に挑戦できます。

一 発酵食品学科はどんな学科ですか

食の科学スペシャリストを育てる学科です。発酵食品を通して、バイオテクノロジーや食品科学の知識や技術を身につけます。また、食品流通や経済なども学ぶことができます。少人数でマンツーマンに近い指導をしますので、他の大学で

は考えられない恵まれた学習環境だと思っています。

一 授業で重視することは

実験を数多く経験し、実験技術や方法を確実に身につけることです。フラスコの持ち方ひとつにも、正しい持ち方と姿勢があります。実験能力が身につくといくと、企業から高く評価され、就職に有利になります。

一 企業実習もあると聞きました

3年生になると、醸造メーカーなど民間企業で3週間ほど実習をします。実際の製造現場を経験することで、学習や就職にも意欲が出るようです。実習生は企業からも評価が高く、この実習で就職を決めてくるが学生もいます。

一 別府大学はどんな大学ですか

自由に研究や学習指導ができる。施設や研究器材も充実していて申し分ありません。人文系の学部が充実しているので、今後は学部を超えた融合研究ができれば面白いと思います。

一 学生へのメッセージをお願いします

サークルなどを通じて学部を超えた友人関係を築いてほしいですね。せっかくの大学生活ですから、いろいろな経験を積み、視野を広げてほしいと思っています。



林 毅 助教 プロフィール

- 別府大学食物栄養科学部助教（発酵食品学科）
- 専門は生化学。
- 東京薬科大学生命科学部環境生命科学科卒、九州大学大学院生物資源環境科学府博士課程修了。博士（農学）
- 北海道大学理学研究科学術研究員を経て現職。



豊富な保育経験を生かした熱心な学生指導で知られる高濱先生。保育者時代のお話や保育の魅力などをうかがいました。

保育のすばらしさを若者に伝えたい

一 保育の道に進まれたきっかけは

小学校の担任の先生の影響が大きいですね。新卒の先生でしたが、非常に楽しそうに仕事をされていて、小学校の先生への憧れが芽生えました。その後も先生には結婚式の仲人をしていただいたくらいに可愛がっていただきました。あと、父親が地元の子供会の役員をやっている、自分も子供会のジュニアリーダーを中学・高校とやっていた。そんな環境の中で自然と子ども好きになっていったのだと思います。

一 男性の保育者は少なかったのでは

当時の資格名称は保育士ではなくて保育母でした（笑）。大学入学時は小学校教員志望だったんです。しかし、勉強してみると、小学校よりも幼稚園の方が創造的で自分に向いていると思うようになって



いきました。また、幼稚園・保育園の方が男性の先生が少ない分、チャレンジする価値も大きいのではないかと考えました。人と同じことをしていても面白くないですからね。

一 保育の魅力、すばらしさとは？

子どもが好きな人間にとっては最高の仕事です。子どもと過ごしていると、1日1回は大笑いすることがあります。仕事で毎日腹の底から笑うことができる。

そんな仕事って他にないでしょう。保育者は高い収入が得られるわけではありませんが、子どもという財産はたくさん得られます。私は昔の卒園生全員と今年賀状のやりとりを続けていますし、誕生日には電話をするようにしています。教師にとって教え子は一生の宝物です。

一 オーストラリアの幼稚園でも3年半ほど仕事をさせていました

貴重な経験でした。渡豪前の私は、自分の考える理想と幼稚園の現実とのギャップに悩むことが多かった。男性保育者はまだ珍しかったし、挫折も経験しました。そんな時に、大学の先輩からシドニーにある幼稚園を教えてくださいました。

日系の幼稚園でしたが、現地の子どももいますから、指導は日本語と英語が併用されます。また、教員にはオーストラリア人もおりミーティングは英語で行われます。保育の仕方、仕事観、ライフスタイルなど日本と違うことが多く、最初は戸惑い続きでした。でも、徐々に慣れていき、気がつけば居心地がよくなっていましたね。私には、日本の保育や文化を振り返る貴重な時間になりました。

一 そして帰国後、大学院に入学された

自分の経験を後輩の育成に役立てたいという思いは昔からあったのですが、渡豪後その気持ちがさらに強まり、大学院で改めて保育の勉強をしました。今は保育者の養成を通じて、間接的に多くの子どもの保育に関わっていると思っています。

一 授業で大切にしていることは

90分の授業の中で、心に響くもの、印

象に残るものが何か一つはあるようにと心がけています。疑問や気になることでいい。学生の成長に結びつく何かが残ってほしい。それと、教師と学生を余り分けて考えず、一緒に考えていくという姿勢を大切にしています。議論が白熱し、授業が終わっても学生同士で熱く語り合っているときがありますが、そんな学生が目を輝かせて参加する授業をしていきたいですね。

一 授業以外に研究会活動も盛んですね

私は人形劇研究会「マーブル」の顧問をしています。“子ども達に夢をプレゼントしよう”を合言葉に、幼稚園や保育園などで公演をしています。1年と2年の縦のつながりを大切に、皆で作品を作り上げる喜びや苦勞を体験してほしいと考えています。



一 学生へのメッセージをお願いします

子どもに愛情を注ぎ、その成長を感じることは、お金に換えられない価値があります。子どもが好きな人、保育に関心がある人は保育の仕事を真剣に目指してほしい。私も精一杯サポートをします。

高濱正文 准教授 プロフィール

●別府大学短期大学部初等教育科准教授

●専門は保育学。

●中村学園大学児童学科児童学専攻、鳴門教育大学大学院学校教育専攻幼年発達支援コース修士課程修了。修士（教育学）

●福岡県やオーストラリアでの長年の保育経験を生かし、保育者の養成に奮闘中。男性保育界のパイオニアでもある。

フィリップ・フォール駐日フランス大使が 本学で講演

2010年11月13日、フィリップ・フォールフランス駐日大使が本学において講演をされました。大使は2008年2月の着任以来、日本における全権大使として忙しい日々を送られています。本学での講演の直前には、「COP10」の名古屋会議に出席できなくなった大臣の代行を務め、さらに11月10日の本国における終戦記念日に出席されるというご多忙振りで、

当日、会場（メディアホール）は一般市民と教職員でほぼ満席となりました。ご講演では日本とフランスの交流について、幅広い観点からお話いただきました。その中には、ジヴェルニーにあるモネの館の日本庭園、フランスにおける日本文化への関心の高さ、特に翻訳された日本文献の多さ（英語文献に次いで2位）、ヘリコプターに関するフランスと川崎重工の共同開発、アラヴァと三菱とのパートナーシップ等々、始めて耳にする話題が満載で、会場に詰めかけた皆さんは一緒に大きくうなずいていました。また、大使の穏やかでユーモアあふれる語り口に、全員がすっかり魅せられたようでした。日本とフランスの関係を再認識させられた大変有意義なご講演でした。



講演中のフィリップ・フォール大使（左）

漢陽女子大学の魯徳柱氏に 名誉博士号を授与

2010年12月2日に、学校法人別府大学名誉博士称号記授与式が32号館多目的室で行われ、今回は、韓国の漢陽女子大学の魯徳柱（Ro Duk Ju）氏が授与されました。

魯徳柱氏は、陶芸科の教授で、発色が難しい辰沙釉を発表するなど旺盛な作品製作活動の傍ら、事務局長として、漢陽女子大学と別府大学とのインターンシップ研修に尽力されました。

授与式では、日高紘一郎理事長が同氏の功績を讃えて挨拶し、称号記が授与されました。魯徳柱氏は、「別府大学の教育理念を自ら実践し、大学の発展のために最善を尽くして皆様のご期待にお応えする別府大学人になりたいと思う。」と受章の喜びを語りました。この後、学園が主催した「平成22年度学園感謝の夕べ」において、参加者の方々に魯氏の名誉博士号授与が披露されました。



左から魯博士ご夫妻、日高理事長、李珍性前漢陽女子大学学長

中国江蘇省教育視察団が来学

2010年11月29日、元中国江蘇省教育長で江蘇卓越国際交流基金會理事長王斌泰氏を団長とする江蘇省教育視察団が本学を訪れました。訪問団は基金會の幹部と江蘇省の立った公立高等学校の校長で構成され、本学の交流協定校である江蘇卓越日語専修學院の袁明正院長の肝いりで来学されました。昨年の夏、友永植文学部長と姚宇龍短大准教授が江蘇卓越国際交流教育基金會を訪問し、同会との交流が始まりました。訪問団は日高紘一郎理事長を表敬訪問した後、豊田寛三大学長・金子進之助短大長ほか関係者と、本学と江蘇省の教育機関との友好交流について懇談しました。現在、江蘇省の主要都市（南京、蘇州、無錫、鎮江、常州）の主要な公立高校には日本語クラスが開設されており、そこで学ぶ生徒は日本への留学を強く望んでいるとのこと。今後とも江蘇卓越国際交流教育基金會を通じた交流を推し進め、本学と江蘇省の学生・生徒並びに関係者による相互交流を進めたいと思います。



王斌泰氏（中央）、袁明正氏（左端）

魯東大学80周年式典に参加して

別府大学学長 豊田 寛三

2010年10月21日（木）から10月24日（日）の間、友永植文学部長、姚宇龍准教授とともに、交流協定校である中国山東省烟台市の魯東大学創立80周年記念式典出席と交流を兼ねて同校を訪問した。

魯東大学が国外の大学と協定を締結したのは、別府大学が最初とのこと。滞在中は何事も「まず別府大学から」といわれ、戸惑うこともあったが、「古き友を大切に」というお国柄を改めて知った。

22日は「日本晴れ」の好天気で魯東大学（教職員・学生数は27,000名）の広いキャンパスは学生・卒業生等であふれていた。式典会場は構内の運動場で、学生ボランティアが受付や席への案内を行っていた。終了後、学内のゲストハウスを見学したが、新しく立派であり値段も安いようでした。

午後、魯東大学で日本語科の学生と懇談する。最初に学生新聞の取材を受けた。3年生を中心に40名くらいが集まっていた。学生のなかには2年間で日本語検定1級を取得した者もあり、授業料などの免除についての質問が多く寄せられました。ぜひ日本へ行きたい、との熱意ある学生も多くいました。魯東大学出身で別府大学で学位を取得した張さん（上海・復旦大学の教員）がいることから、学生たちも別府大学には好印象をもっていた。夕食会終了後、運動場で創立記念花火大会やコンサートがあり、周囲の一般市民や子供たちも大勢参加していた。

23日には烟台市内を見学をしました。烟台市はワインの産地であり、かつての工場が博物館となっている張裕酒文化博物館を見学。周恩来や江沢民も訪れていた。町は超高層ビルが建設中で中国の成長ぶりが見えた。



魯東大学での歓迎会、右2人目が豊田学長

いきいき別大生（サークル・研究会）

スポーツ 振興会

チームワークで積極活動

バレーボール部（史学科 3年 上土井 沙織）

スポーツ振興会バレーボール部は、別府大学スポーツ振興会全21サークルのうちの1つです。

バレーボール部は自他共に認める仲良しサークルです。部としてバレーボール活動はもちろん活発で、県内リーグや九州リーグに積極的に参加しています。週3日行われる練習では、経験者、初心者と一緒に楽しくバレーボールをしつつ、大会で結果が残せるよう励んでいます。

また、「ふうせんバレーボール」というハンディキャップを持った人たちのバレーボール大会の審判や補助員といったボランティア活動も行っています。毎年10月に宇佐市で開催される大分大会には、九州各県から約400名が参加して、競技が行われます。

部としての活動と、ボランティア活動以外では、七夕、ハロウィン、クリスマス、忘年会、部員のサプライズ誕生会など、イベントがあるたびに集って普段から交流を深めています。

楽しむ時はとことん楽しみ、締める時は締め、オンとオフの切り替えを大事にすることで、有意義な日々を送っています。新入生を新たに加え、更にバレーボール部を盛り上げていこうと思っています。スポーツ振興会、並びにバレーボール部への加入を期待しています。



文化会

活動通じて「社会を学ぶ」

器楽部（国際言語・文化学科 2年 恒吉 智美）

文化会とは、19団体の文化系サークルの集まりです。それぞれのサークルが文化的目標や目的を持ち、日々楽しく活動しています。各サークルそれぞれの活動の他に、文化会全体で取り組む活動もあります。例えば、5月のさつき祭、11月の石垣祭（学園祭）、3月のリーダーシップトレーニング（研修旅行）等があります。さつき祭は各サークルが紹介CMを作成し上映したり、ステージでは様々な企画が催されたり、展示を行う等、各サークルの活動がはっきりと分かる場所です。

また、別府大学は「別府市防犯パトロール隊」という団体に参加しており、文化会からも多くの有志がメンバーに登録し、別府市の安全のため活動しています。

私は、その文化会の1つである器楽部に所属しています。新入生歓迎ライブや、さつき祭、石垣祭でのステージライブを行うとともに、音楽を通して人と人との交流を楽しんでいます。また、大学へ入ってから初めて、楽器に触れる人ばかりであるため、互いに切磋琢磨日々練習を頑張っています。私は器楽部に入って様々な経験をさせてもらい、人間関係を学んできました。サークル活動を通していろいろな人と出会い、様々なことを経験し、そこから何かを得ていくことが社会人になった時に必ず自分の役に立つと信じています。これからもっと楽しく充実した活動を各サークルに期待したいと思います。



できることあれば「まず行動」—エコ研

室長 石丸 靖菜

エコ研究会（通称・エコ研）は、国際経営学部が創設されたのと同じ2008年に創設されました。まだまだ若い研究会ですが、現在文学部の学生を含む11人が所属し、阿部博光先生の指導のもと活動に励んでいます。

エコ研には「活動パターン」があります。まず、環境について問題を提起。それを解決するにはどうすればいいか、何が必要なのかを考えます。そして、自分たちにできることを見つけてすかさず「行動」へ。

これまで東別府駅から海岸線沿いの「ゴミ拾いハイイク」、大学周辺・九州横断道路の「ゴミ拾いハイイク」、開発途上国へのポリオワクチン提供を目的とした「エコキャップ集め」、大学構内の緑化運動の一環として「国際経営学部棟前でのチューリップ200本植え」などを行ってきました。

「たかがゴミ拾い、されどゴミ拾い」。活動を通じてメンバーはたとえゴミ拾いでも奥が深いことを実感しました。環境問題に対する認識を強めるだけでなく、自主性、協調性そして地域への奉仕の心など学ぶことは多かったと思います。

4月になれば、いよいよチューリップ200本が開花します。そして新たなメンバーも迎えることになり、エコ研は「常に実行力を発揮する研究会」としてますます充実すると期待しています。



大分市成人記念集会実行委員として

保育科 堤 衣里

2010年6月、大分市成人記念集会実行委員を募集していることを知りました。自分自身がその企画にかかわれることは、成人式にただ参加するだけでなく、何よりも二十歳の記念になるのではないかという気持ちがわきました。他の大学の方とも交流ができるということへの興味もあり応募することにしました。

9月から成人式当日までの5ヶ月間、10回の実行委員会に参加し、記念集会のテーマや、式典の内容などを話し合いました。テーマがなかなか決まらず、みんなで案を出し合い、「改～今までの自分 これからの自分～」に決まった頃には、実行委員7人の心が一つになったような気がしました。サブテーマ～今までの自分 これからの自分～は、私の考えた案が採用され嬉しかったです。

成人式当日は、ステージに立ち挨拶をする役でした。少し緊張しましたが、仲間励まされ無事に役目を果たし、その日は、心に残る一日を過ごすことができました。実行委員として式典の準備にかかわり、多くの人に支えられ、皆でこの盛大な式典をなし遂げたと思うと、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。これからは、周りの人に感謝しながら、一人の大人として自分を改め、新しい自分へと成長していきたいと思っています。



がんばってます留学生

「和楽のつどい」に参加

別府北ロータリークラブ主催の「和楽のつどい」が2011年1月16日に別府市のブルーバード会館にて行われました。日本の伝統・文化を一般市民や外国人に深く関心をもってもらうために行われている行事で、今年で2回目となります。生け花・茶道・日舞・大和楽・鳴物・尺八・琴・琵琶などの出し物がある中で、本学の留学生10名がゆかた姿で、都々逸(どいつ)を披露しました。練習の成果もあり、たくさん拍手喝采を浴びました。留学生自身も、都々逸の起源から発達した歴史背景なども勉強し、日本の伝統や文化にふれることのできる貴重な体験をすることができました。



北ロータリーの皆さんと留学生
(チンソリグト ムンフツェツェグ、スチツグナセカラ、キョウ ナン)

「日本語スピーチコンテスト」で大活躍 (きちよくれ大分輪をつなげプロジェクト)

2010年12月11日、留学生の日本語スピーチコンテストと併せて留学生のパフォーマンスが、大分市のコンパルホール多目的ホールで開催され、県下の7大学及び大分工業高等専門学校の留学生総勢18名が参加しました。

スピーチコンテストには各大学より14名が参加し、本学から、韓国出身の短期大学部の趙アラさん、中国出身の短期大学部の趙天寧さん、別科より中国出身の李昕穎さんが出場し、流暢な日本語スピーチで3人も会場を魅了した。審査の結果、趙アラさんが優秀賞(2位)、趙天寧さん、李昕穎さんが優良賞を獲得しました。

コンテストのあと留学生4名によるパフォーマンスが行われましたが、本学より、中国山東省出身の大学院文学研究科博士課程2年生の邵彩霞さんが参加しました。邵さんは美しい民族衣装を着て中国語で「我家在中国」という中国の地方の歌を披露し、抜群の歌声で場内から喝采をいただきました。このように留学生諸君は異国の地ながらのびのびと勉学に励み、地元の方々と仲良く交流に努めています。

なお、このコンテストは「大分地域留学生交流推進会議・大学コンソーシアム大分」が主催し、大分県下報道各社が後援して、毎年開催されています。



左から邵さん、李さん、趙(天寧)さん、趙(アラ)さん

「日韓交流親善ゴルフ大会」でボランティア

「2010日韓交流親善ゴルフ大会・別府インターナショナルオープン(日韓交流親善ゴルフ大会)」が昨年(2010年)10月29日、別府市の別府扇山ゴルフ場で開催され、本学から30名の留学生が通訳のボランティアとして参加しました。その中の1人、食物栄養科学部・発酵食品学科所属の朴辰容(パク ジンヨン)君は、「始めは緊張して、間違ってしまうこともあったけど、徐々に慣れてきてうまくできた。そして、このボランティアに参加してとても良い経験になりました。」と、国際交流の架け橋として貢献できたことが、留学生活の良い糧になったようです。

プレー終了後、杉乃井ホテルにおいて、表彰式、歓迎レセプションが開催され、地元大分の品を使った料理を味わいながら、友好を深め、留学生にとっても有意義な時間となりました。



韓国の参加者とキム ヨシキョンさん(右から2人目)

「子どもの講座」に参加

2011年2月19日、本学の留学生5名が、朝日大平山地区公民館で開催された「子どもの講座B(ワールドカルチャー)」に参加し、約30名の児童に中国や韓国の文化を紹介しました。講座では、留学生がそれぞれ自分の出身地や伝統文化について説明しましたが、日本の正月と中国・韓国の旧正月の違いが話題になると、子どもたちもすっかりうち解けて、和やかな語らいとなりました。旧正月に食べる餃子や外国のお年玉のもらい方など、始めて聞く話に子どもたちは興味津々で、目を丸くして聞き入っていました。最後に子ども達と一緒にゲームを楽しみましたが、子どもたちは珍しい韓国の飴をプレゼントしてもらい、すっかり満足していました。留学生にとって日本の子どもたちとの交流は初めての体験でしたが、自分たちの伝統文化を日本の子どもたちに知ってもらうことができ、大変満足でした。



ゲームで遊ぶ子どもたちと留学生

学園を支えていただいた方々

長年にわたり大学・短大を支え、2010年度をもって本学を退任される先生方の足跡を紹介させていただきます。皆さん、大変お世話になりました。

衛藤 賢史 先生（文学部・国際言語・文化学科）

大学の最長老、「家庭的で暖かな別府大学」を象徴する衛藤先生。学生・卒業生が最も慕い、教職員の信望が最も厚い先生でした。OBSラジオのパーソナリティをお勤めですので、これからもうラジオでお声が聞けます。



加藤 富民雄 先生（食物栄養科学部・発酵食品学科）

上品なおもぎしと柔らかな物腰の加藤先生。実家は造り酒屋さん、大分の「西の関」が大好きとのこと。学生募集でもご活躍いただきました。



安東 大隆 先生（文学部・国際言語・文化学科）

大学のご意見番、厳格なイメージの一方でシャイな安東先生。ご実家は竹田の古刹で、現役のご住職。留学生の教育に尽力され、海外での信望も厚い先生でした。



森井 秀昭 先生（食物栄養科学部・食物栄養学科）

大学院の食物栄養科学研究科長としてご尽力いただいた森井先生。専門はミクロの世界、筋の通ったお話しと硬骨な研究者魂は教員の模範でした。



阿部 謙之 先生（文学部・国際言語・文化学科）

がっしりとした体格、大人の風格そしてメガネの奥のやさしい目は阿部先生。長年、監督として別大女子柔道を西日本の雄に育てられました。



村田 勝 先生（短期大学部・食物栄養科）

短大の大御所・学園の生き字引の村田先生。無類の話の面白さと並外れた研究意欲は先生の真骨頂。ヒットさせた加工食品は、学生や地域との関わりの中で生まれてきたものばかり。怪しげな試作品が食べられなくなるは残念です。留学生委員長ご苦労様でした。



富吉 素子 先生（文学部・人間関係学科）

人間関係学科を創設から支えられた富吉先生。社会学がご専門、いつも学生を連れて大学の周りを歩き、社会調査の楽しさを学生に教えておられました。



後藤 修廣 先生（短期大学部・地域総合科学科）

大分キャンパス担当学長補佐として、また短大の英語教育の要としてご尽力された後藤先生。高校校長経験者としての学生募集の手腕は抜群のものがありません。



佐藤 新治 先生（文学部・人間関係学科）

心理学の専門家として、大分大学からお出でいただいた佐藤先生。温厚なお人柄、暖かい目で学生や院生を育てていただきました。



下山 邦夫 先生（短期大学部・地域総合科学科）

ツアーコンダクターとしての経験を生かして、旅行実務教育に尽力された下山先生。国家資格である国内旅行業務取扱主任の合格者を毎年送り出しました。



坂本 護 先生（文学部・教職課程）

公務員就職指導のエキスパートとして高校現場からお出でいただいた坂本先生。本学の就職指導体制を築いた立役者で、洒脱な語り口は学生と保護者に人気がありました。



楊 又樺 先生（文学部・中国語担当）

台湾からお出でになった楊先生。控えめながら裏としたお人柄は学生からとても好かれていました。



平川 純一 先生（短期大学部・地域総合科学科）

短大の情報処理全般を担当された平川先生。資格指導に定評があるだけでなく、コンピュータグラフィックスの授業は多くの受講者を惹きつけました。



森口 充暲 先生（食物栄養科学部・発酵食品学科）

初代食物バイオ学科（発酵食品の前身）の学科長、食物栄養科学部の学部長の要職を務められた森口先生。気さくなお人柄と旺盛な行動力で学部・学科の基礎を築かれました。



高橋 敦文 先生（短期大学部・保育科）

教育だけでなく、教育研究の厳しさもよくご存知であった高橋先生。学内ではしばしばジャージ姿でモノづくりを楽しまれていました。もっと学生と接したかった、と本当に残念そうでした。



後輩への言葉



糸山 隆志(史学科 2009年卒業)
2010年度別府大学大学院文学研究科歴史学専攻 博士前期課程修了

メキシコへの海外研修旅行から 大学院進学へ

歴史を学ぶ醍醐味の一つは、様々な時代・場所に生きた人々の風土や文化、考え方の違いに触れることです。様々な資料を通じてその時代時代の人々の様子を見ていくことは楽しいことです。またそれは転じて現在はどうなのかと自身を省みることもつながっていきます。私は大学で世界史を学びましたが、西洋と東洋の考え方の違い、新大陸と旧大陸の文化の違いは特に興味深いところでした。

別府大学では世界史を専攻する学生が少ないのですが、その分学生と教授の距離が近く、時には研究室でお茶を飲みながら議論を行ったこともありました。そして、何といても最大のイベントは研修旅行で、私は2年生の時にメキシコへ行きました。そこで専攻分野だったマヤ文明の遺跡や工芸品に現地で触れた経験は、当時の日々の勉強や卒論に大きなプラスになりました。また、より専門的な勉強がしたいと大学院への進学を考えるきっかけにもなりました。

また、史学研究会学生部会での活動も私の中では大きな経験でした。2年生で西洋史研究室の室長、3年生では学生部会の代表として中心的に活動に参加し、合同研究発表会の運営などに携わりました。その中で、人を動かすことの難しさや面白さや個人の立場の違いを理解すること、人間関係の大切さなどを学びました。もちろん、全てが上手くいったわけではなく、特に立場の違いの理解の点では失敗もありましたが、それも含めてこの様な経験は大学生活で得られた財産です。この場を借りて、このように様々な機会を与えてくださった本学の先生方に深く感謝申し上げます。

現在、私は別府市役所に勤め、日々の業務に励んでいます。一口に別府市民と言っても、様々な立場の人がいて、その考え方も異なります。その市民一人一人の立場に立って対応を行うことは、歴史から学んだことと根幹は同じです。歴史は決して年号の羅列といった無味乾燥なものではなく、そこには生きた人間の営みがあります。別府大学の史学・文化財学科に入ってその魅力に触れる後輩が一人でも多く増えることを願っています。



劉 董(臨床心理 修士修了)

良い夢を持って

光陰矢のごとし、そろそろ大学院修了の時期になります。これまでの大学生活を振り返ってみると、楽しいこと、つらいこと、頑張ったことなどたくさんあり

ました。別府大学での7年間は、これからの人生において、非常に大事な経験になると私は信じております。勇気を出し、あきらめず、頑張れば、きっと夢を実現できることを別府大学の先生が教えてくれました。夢を実現するためには、それなりの苦労や困難もありますが、そのことで得られるものも多いのです。良い夢を持つと自身が強くなることを、ぜひ覚えておいてください。



橋野 舞子(地域総合科学科 2年)

早めに行動を

私が大学生活で学んだことは、早めに取り組む大切さです。2年間という限られた時間の中で授業以外にも資格の取得や期末試験、就職活動を効率良く

こなすのは大変です。しかし、目標を立て具体的に計画を練れば、自ずとやるべきことが見えてきます。

それらを踏まえて行動することで余裕が生まれ、自分らしさが生きてくると思います。自分の個性を発揮し、あらゆる面で活動されることを願っています。



樋渡 陽香(文化財学科 4年)

目標持って行動を

大学生活は色々楽しいものであふれています。しかし、この4年間という時間は長いようで意外と

短く、あっという間に過ぎ去っていきます。この4年間で充実させるためには、目標を持って自分で考えて行動するしかありません。

これから学生生活を送られる皆さんには様々な経験をこの別府大学で積んで、広い視野を持った「今自分が何をすべきか考えて行動できる人」になってほしいと思っています。



満江 春奈(附属看護専門学校 2年/40回生)

健康管理の大切さ

私は2年間の学校生活のなかで「健康管理の大切さ」を強く感じました。テスト前や実習中は、身体

的にも精神的にもハードです。私自身、体調を崩したり、納得のいく実習ができずにくじけそうな時もありました。しかし、生活習慣を正し、悩んだ時は先生方や友達に相談し、乗り越える事ができました。後輩の皆さんは今後も臨地実習に向けて更に忙しくなると思います。自分の健康を大切に、頑張ってください。心から応援しています。



林 楠(別科日本語課程/中国)

ありがとう…皆さん

一年前、私は日本に来ました。日本語も話せないもので、とても不安な気持ちで別科に入りました。別科は日本語能力によってクラスを分け、全部日本語を使って授業をするので、とても心配でした。

でも、先生が熱心に授業をしてくださり、質問がある時、先生は自分の

休み時間を利用して、詳しく説明してくれました。また、社会見学や日本事情の授業もあるので、日本の文化や生活習慣を学ぶことができます。

クラスには中国、モンゴル、韓国、台湾、フランス、サウジの学生がいますから、分かる日本語を一生懸命使って、彼らと話しているうちに日本語も上手になってきました。

今、私は日本の生活を楽しく過ごしています。先生や友達のおかげです。これから新たな人生の道のりを努力してきたいと思っています。

別府大学創立60周年記念事業

今年度（2010年度）、本学創立60周年を記念して、以下の様な事業を行いました。

公開講座

「文学、ことば、絵 — 伝えたいこと 伝わること —」

コミュニケーションについて今一度考えてみようというテーマが設定され、「マンガの過去・現在・未来」「身体とのコミュニケーション」「空間を語ることは—地図—」「アーサー王物語の写本」「自分史を残す」など様々な角度から13の講座が開講され、多くの一般市民の方も聴講されました。また、最終回はシンポジウム「文学・絵にして伝えてきたもの」でシリーズを締めくくりました。



大分ユーモアまんが大賞

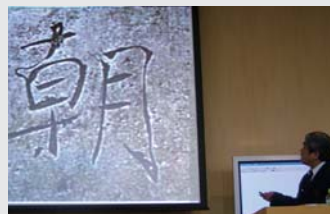
ユーモアに秀でた大分の地域特性を活かし、心を和ませるユーモアまんがを公募し、明るい笑いと豊かな想像力を発信しようと企画されました。プロの漫画家、専業主婦、デザイン専門学校生、県内小学生・中学生・高校生と、全国の幅広い層から多数の応募があり（応募者総数114名、応募作品数156作品）、厳正な審査の結果、ストーリー・4コマ部門大賞は相澤拓さん（56）＝東京都＝の「にっこう沢の昔話」、1コマまんが部門は山村武次さん（61）＝富山県＝の「今日の料理3D」に決定。芸術文化学科2010年度卒業制作展に合わせ、大分県立芸術会館で作品が展示されました。受賞作品は大学のホームページで公開中です。



別府大学創立60周年記念書道展

書道研究室の22年間の歩みを振り返り、また将来を展望する企画です。書道展では、書道教室のこれまでの活動を書の作品（約100点）と甲骨文字や木簡を始めとする史資料（約100点）で紹介。講演会では、学内外の5名の講師がそれぞれ報告を行い、書道研究室の過去・現在・未来を回顧、展望しました。県下高校の先生・生徒を始め多くの皆さんに参加、聴講いただきました。

2010年5月10日～
5月16日
会場：大分市アートプラザ



日本西洋史学会60周年記念大会

2010年5月29・30日、本学が主催校となり「日本西洋史学会60回大会」を開催しました。大会シンポジウムでは「世界史

教育の現状と課題」をテーマに活発な討論が行われ、小シンポジウムでは本学の教員及び卒業生が「大航海時代における東アジアの交流—日本の銀と鉛等の金属交易を中心に—」をテーマに斬新な議論が展開されました。時代別の分科会では最先端の研究成果35本が報告されました。大会には約500名が参加、2日間にわたり熱のこもった報告と討議が行われました。大会シンポジウム会場：ビーコンプラザ



企画展「後世に伝えたい日本の原風景 田染荘小崎」

別府大学と豊後高田市が共同主催した展示会です。重要文化的景観に選定された田染荘の歴史を伝える古文書や絵図、豊かな自然環境を示す写真、農具などが展示されました。2010年11月6日～12月22日、会場：本学付属博物館新館。シンポジウム「文化的景観と地域連携」も開かれ、各自治体の文化的景観への取り組みと大学との連携が紹介され、文化的景観の教育的効果や地域振興との関連について議論されました。



シンポジウム「精神障がい者のための地域連携（保健医療福祉）」

《心の病を考えることは、地域や社会を考えること》という趣旨で、2010年11月20日に別府ビーコンプラザ国際会議場にて開催されました。（本学人間関係学会主催）

□基調講演

「てんかん医療からみた医療福祉サービスの地域連携」
国立静岡神経情報センター名誉院長 八木和一先生

□パネルディスカッション

「地域連携“大分モデル”の可能性」

フォーラム「別府診断」

別府の諸課題を分析して将来に向けての提言を行い、地域と大学の共生のあり方を考えようという趣旨で開かれたフォーラムです。

2010年2月26日、会場：本学メディア教育・研究センター
詳細は学園Newsで紹介しています。



創立60周年を節目に、別府大学は地域との連携を更に深めつつ、本学ならではの教育と研究を推進してまいります。

後藤宗俊先生が「平成22年度大分合同新聞文化賞」を受賞

別府大学名誉教授で、咸宜園教育研究センター名誉館長の後藤宗俊(72)先生が、2010年11月3日の「文化の日」に大分合同新聞文化賞を学術部門で受賞されました。

先生は、1961年に九州大学文学部史学科を卒業され、県教育委員会(現・文化課)で19年間にわたって文化財の調査と保護行政にあたってこられました。その間、県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館(現・県立歴史博物館)の開館に携われたほか、中世の農村景観を今に伝える豊後高田市の田染荘を調査・保護する取り組みで、第1回坪井賞を受賞されました。

90年に別府大学教授に就任され、研究と学生指導に情熱を傾けられてきました。大学では文学部長を歴任されるとともに、94年から県文化財保護審議会委員、96年からは同審議会会長を務められました。日田市にある日本最古の豪族居館と考えられている「小迫辻原遺跡」の国指定、国指定史跡「咸宜園跡」の保存整備や「小鹿田焼の里」の重要文化的景観選定などに指導的立場で取り組まれてきました。2004年から4年間、県考古学会会長を務められ、県考古学会の発展に尽力されました。

先生は、一貫して文化財の研究と文化財保護を指導的立場からリードされてこれ、今回の受賞につながりました。祝賀会は、平成23年1月8日大分市内のホテルで大学や文化財関係者を含め140人が出席し、盛大に行われました。

「東九州歴史考古学論考」、最近では宇佐で出土する博伝を研究した「博伝の来た道」などの著書や論文が多数あり、これからの更なるご活躍をお祈りしたいと思います。



受賞祝賀式の様子

有吉宏朗先生が「東京海上日動賞」を受賞

本学短期大学部助教の有吉宏朗先生が、第46回「昭和会展」(2011年1月27日～2月7日/日動画廊東京本店)において「東京海上日動賞」を受賞されました。有吉先生は本学文学部芸術文化学科絵画表現コース(現在、国際言語文化学科)の出身で、現在は短大の初等教育科に所属しています。今回受賞された「昭和会展」は、日動画廊が主催する伝統ある展覧会(1966年発会)で、画家・彫刻家を志す新人の登龍門となっており、受賞者からは画壇の中核となる作家が多数輩出しています。今回は109人が出品する中、有吉先生はその写真絵画における誠実な姿勢と習熟した技術が高く評価され、受賞の運びとなりました。ご受賞大変おめでとうございます。先生の今後のご活躍を期待したいと思います。



受賞作品「白の静物」

「スポーツ・芸術文化奨励賞」を授与

法人

2011年度学校法人別府大学スポーツ奨励賞、芸術・文化奨励賞の授与式を2月17日に、本学メディア教育・研究センター4Fホールで行いました。

この授与式は、今年度スポーツ、芸術・文化、ボランティア活動等で活躍した本学園の学生、生徒、児童、園児を対象に、全国、西日本、九州大会等で優秀な成績を挙げた団体、個人を表彰し、これからの更なる活躍を期待するものです。

授与式には、幼稚園から大学まで団体・個人の総勢133名に奨励賞を授与し、続いて特別表彰として、全日本学生なぎなた選手権大会で三連覇を達成した、なぎなた部が表彰されました。

奨励賞を授与した後、日高紘一郎理事長から、なぎなた部の全日本学生選手権大会三連覇は大学始まって以来の快挙であることを讃え、授与された全員に対しこれからも精進し、自分自身の人間性を高め、他の学生の模範となってほしいと挨拶がありました。

また、同日午後2時から、学術研究出版物の執筆・刊行及び地域に貢献した本学園教員の業績に対しての奨励賞授与式が同会場で開催されました。



日高理事長・豊田学長をはじめ、なぎなた部の皆さん

別府大学創立60周年記念「フォーラム別府診断」を開催

大学

2010年は本学創立60周年に当たり、本年度さまざまな記念事業を行いました。その締めくくりの事業として、2月26日に「フォーラム別府診断」を開催しました。フォーラムでは、本学の3学部が「別府」に関わる諸課題を分析するとともに、将来に向けての提言を行い、地域と大学の共生の在り方が話し合われました。

前半は、食物栄養学科の平川史子准教授(「ゲゲゲ(減脂肪、減塩、減量)のごはん」)、国際経営学科の中山昭則研究室(「地域資源の活用をさぐる～持続可能な観光発展をめざして～」)、史学・文化財学科の段上達雄教授(「おみやげ文化論」)、同学科の飯沼賢司教授(「学生は別府温泉をどうみたか?」)が発表し、それぞれの観点から提言を行いました。後半は、別府市企画部政策推進課参事伊藤守氏も加わり、友永植文学部長の進行でパネルディスカッションが行われました。大学からの「提言」をどのようにして別府のために活かして行くかが議論され、フロアーとの活発な意見交換もあり、大変有意義なディスカッションとなりました。



パネルディスカッションの様子

留学生が高校生と異文化交流

大 学

国際経営学部留学生は昨年2010年12月6日、高大連携事業の一環として、別府商業高校の学生との交流会を開催しました。「留学生との交流を通じた進路学習」と称して別府商業で行われた交流会には、学部1、2年生の中国、台湾、韓国、ネパールからの留学生32人が参加。別府商業1、2年生の約300人と「対話」を楽しみました。

体育館で始まった交流会ではまず、国際経営学部の阿部博光准教授が「避けて通れないグローバル化の波」をテーマに講演。「グローバル化の波を乗り越えるには、異文化を知ること。そのためには今日、参加した留学生とじっくり語りあって交流を深めることは重要だ」と強調しました。

その後留学生は2人ずつ16クラスに分かれ、高校生らと個別に「対話」。出身国、出身地の文化について、なぜ大学で勉強をするのか、大学で勉強した後の進路はどのように考えているのかなどを説明しました。これに対し、高校生からは「日本人のことをどう思うか」、「なぜ別府大学を選んだのか」など質問が相次ぎました。

交流会も終盤になると、留学生と高校生がすっかり打ち解け、終了時間をオーバーする結果に。留学生がバスで別府商業を出発する際、掃除の時間帯にもかかわらず見送りに出て来る高校生が後を絶たず、「今度アルバイト先に行くから」、「来年も来てね」と最後まで盛り上がった交流会でした。



別府商業高校での記念写真

短期大学部、授業改革へ取り組む

短 大

ハーバード大学のマイケル・サンデル教授の「白熱教室」が好評を博している例に見られるように、大学の内外から「授業改善」の要望が高まっています。本学においても全学規模でFD研修会を立ち上げ、教員の資質向上や授業の質的向上を図っているところです。

短期大学部では、前・後期末に「授業改善アンケート調査」を実施し、その結果を各先生方に還元するとともに教授会で全体的な分析や事後の方向性等を検討しています。そして、真面目で実験実習には熱心に取り組むが、講義形式の授業には興味関心を余り示さないとされる本学学生が「面白い」と感じた授業の事例研究を行っています。

本年度は11月17日に初等教育科の山村准教授が「授業における『NIE』の実践について」の実践報告をしました。新聞記事という身近な教材を用いることで意欲的に取り組むようになり80%超の生徒が「満足している」と評価している例に、各先生方は授業改善の意欲を高めたようです。



山村先生の授業風景

地域総合科学科1年生が韓国での国際交流キャンプに参加

短 大

別府大学は海外の数多くの大学と姉妹校提携を結んでいます。そのうちのひとつ、韓国の大邱科学大学からこのたび「韓国グローバル体験TSUキャンプ」への招待状が届き、短期大学部地域総合科学科で韓国語を学んでいる1年生7名が参加しました。日程は2011年1月13日から22日までの9泊10日で、韓国、中国の学生たちと一緒に大学寮、ホテルに宿泊し、ホームステイも体験しながら、国際交流を行いました。

大邱科学大学で韓国語や韓国の社会・文化について学ぶ一方、韓国料理作り、民芸品作り、テコンドー、韓国のダンス等も体験しました。学生たちは、最初は言葉が通じなくて苦労し、文化の違いに戸惑うこともありましたが、韓国、中国の学生たちと共に学びあうことによって刺激を受け、友好を深め、有意義な体験を積みました。帰国後、参加した学生たちは、今後とも韓国語の勉強を続け将来は韓国に関わる仕事に就きたいと張り切っています。



大邱科学大学での記念写真

多彩な経験積んで「看護観」

附属看護専

別府大学附属看護専門学校でこのほど、看護に関する思いを学生が表現する「看護観発表」が行われました。2年間学んだ成果を披露する場でもあり、学生達はそれぞれが思い描く看護観を言葉にしました。

学生達は入学したてのころ、「看護とは？」の質問にうまく答えることができず悩む者もいました。しかし、実習で出会った多くの患者さんや指導した方からのアドバイスを受け、これらを振り返ることによって徐々に自分の看護観を言葉にできるようになりました。

学生達はこの日、6カ月間の臨地実習での体験や学習を終えて看護観の発表に臨みました。40回生の所賀真奈美さんは「看護観発表に参加することで他の人の考えも知ることができ、看護に対して視野を広げることができました」と述べています。

また学生達は附属看護専門学校での生活を終えたあと、それぞれ別の臨床現場でさらなる経験を積んでいくことになります。所賀さんは「この学校で学んだ看護の基礎をもとに、私の看護観である『患者様のニーズに沿った援助』ができるよう、患者様の立場に立ち、寄り添うことができるような看護師になりたいです」と抱負を語っています。



看護観発表会の様子

生徒による生徒のための体育大会

明豊中学

2010年11月14日、野口原陸上競技場にて、明豊中学校体育大会が行われました。

当日は、全校生徒で取り組んでいる「明豊ソーラン」の赤龍団・青龍団に分かれて、各競技に挑みました。騎馬戦・綱引きなどのおなじみの競技から、クラス別対抗競技、保護者の方や小学生の競技など、会場にいるすべての人が参加し、大盛況のうちに終わりました。勝負は、両団とも接戦でしたが、最後の色別リレーで青龍団が勝利し、青龍団が総合優勝に輝きました。

今年度の体育大会は中学・高校別開催で、実行委員の生徒が中心となり「自分たちで体育大会を作り上げよう」という目標のもと、企画・準備・運営を行いました。そして、全校生徒が一つとなって行うことができ、たくさんの思い出が残る充実した体育大会となりました。



体育大会開会式の様子

留学生のための日本文化体験 お雛様をめぐる旅

同窓会

2011年3月6日、別府大学同窓会が「留学生のための日本文化体験 お雛様をめぐる旅」を実施し、約40名の留学生が参加しました。まず午前中に、杵築市の大原邸を見学し、「雛祭り」についての説明を受けた後、杵築のお雛様や施設などの見学を行いました。日本の伝統的な生活様式や道具の具体的な説明に、留学生たちは興味深く聞かれています。午後からは、国東市の「やよいの村」を訪ね、弥生時代の住居や施設の展示物を見学した後、雛人形の土器や流し雛を作成し、日本文化の原点に触れる体験をしました。初めての経験に、留学生たちは時間の過ぎるのを忘れて作業に没頭していました。「旅」の最後に、石釜で焼いたピザが振る舞われたり、景品の抽選会も行われ、留学生たちにとっては、楽しみながら日本文化を学習できた有意義な一日でした。



杵築のひな祭りの説明を聞く留学生

別府大学附属幼稚園創立50周年を迎えて

附属幼稚園

今年度（2010年）、上人ヶ浜に開園して50年の節目を迎え、11月に大学の3号館ホールで記念式典並びに音楽会を開催しました。演奏を快くお引き受けくださったのは、卒園生で演奏家として活躍中のお二人です。ご来賓、保護者、卒園生の方々が参加くださり、子ども達も「今日は、幼稚園の50歳のお誕生会だね」と、いささが緊張の表情を見せながら話を聞いたり演奏に聞き入ったり張り切ってステージに立ったりしました。法人や大学、別府大学吹奏楽部、食物栄養科のご協力も得て、心に残るものとなりました。

運動会でも、園旗と共に50周年記念の大きな旗を先頭に入場行進。伝統の「別大ソーラン節」を応援席の方々も一緒に全員で踊りました。年長児恒例の秋の山登りにも、50周年記念の旗を持って行き、由布岳を背に記念写真に納まりました。

これまで幼稚園に関わってくださった多くの方々の園児の成長や附属幼稚園の発展を願う熱い思いや支援により、1,834人の卒園生を送り出してきました。皆様が温かく支えてくださっていることに改めて深く感謝申し上げます。



創立50周年記念音楽会の様子

ホームカミングデー

同窓会

2010年11月6日、同窓会活動の一環としてホームカミングデー（卒業生の集い）を石垣祭に合せて開催しました。別府大学の卒業生が学び舎に集い絆を深める、そして何より「母校に帰ってきてもらいたい」という思いを込めたイベントです。今年は本学卒業生で長らく附属高等学校にお勤めであった丸山幸子先生に「あの頃、あの時」というテーマで講演していただき、また学内からは食物栄養科学部長の江崎一子先生に「免疫と栄養」というテーマでお話しをしていただきました。会は終始なごやかな雰囲気の中で盛會のうちに終わりました。来年度も開催を予定しておりますので是非ご参加下さい。お待ちしております。



坂本義明同窓会長の挨拶

表紙の挿絵



「Ruined house」F100 キャンパス・油彩
安倍沙保里（絵画表現コース）

作者コメント

私は朽ちた建物や草木に心惹かれます。この作品は別府の魅力的な古民家と友人をモチーフとして、感覚的に色面だけで表現しました。

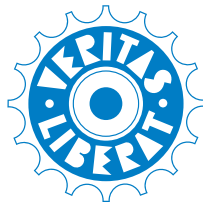
編集後記

今号では、特集「地域連携」の第2回目として、学生が取り組む地域連携を取りあげました。本学の教育方針が学生諸君の活動の中に具現化していることをお伝えしたいと思います。教育Close Upでは、本学の伝統的な免許・資格教育を取りあげました。多くの卒業生が在学中に取得した免許・資格を生かし、社会の様々な分野で活躍しています。本学はこれからも社会や地域の発展に貢献できる有用な人材を育成して行きます。
(友永)

新聞で紹介された別府大学・短大の活動

(2010年4月から2011年2月の主なもの)

新聞社	内 容	新聞社	内 容
毎日4/1	国東修正鬼会継承には人の支援が必要(インタビュー) 【段上達雄教授(史学・文化財科学)】	大分合同9/29	千葉国体 なぎなた成年で優勝 気迫の頂点 【矢野貴司さん、板井奈津美さん(別府大学生)】
大分合同4/4、今日4/3	別府大学・短大で入学式を挙行 新学長2人が入学許可	今日10/5	別大短大生がお菓子の家のカレンダーを製作、施設などに無料配布 【短大食物栄養科】
大分合同4/4	子どもの食物アレルギー対策に取り組む(「ひと」欄) 【高松伸枝准教授(発酵食品科学)】	大分合同10/7、今日10/4	シイタケでB級グルメ 別大短大生が調理実習 焼きそば煎餅や醤油饅頭も 【短大食物栄養科】
大分合同4/5	明豊速けり頂点 九州高校野球予選 山野完封、守り勝ち 【明豊高校野球部】	今日10/9	ネット使い遠隔交流授業 別大短大と韓国大邱科学大 【短大初等教育科】
毎日新聞4/5	鉛から見た日本の大航海時代(分析科学と歴史学で融合研究) 【飯沼賢司教授(史学・文化財科学)】	大分合同10/9	60周年に思う(「ひと」欄) 【原正信明豊中学高校指導監】
大分合同4/8	学生と教員が互いに学びあう大学づくりを目指す別府大学長(「ひと」欄) 【豊田寛三学長】	読売10/19、大分合同10/11	別大生らが福岡の 中世の景観楽しみながら 豊後高田(田染荘)で収穫祭 【史学・文化財科学、短大地域総合科学科】
今日4/20	別府大・短大でオープンキャンパス 授業体験に興味津々	毎日10/14	心のメモ 子どもたちと週1回の「書の遊び」 成長の小さな手助け 【荒金大琳教授(国際言語・文化科学)】
大分合同4/22	別府大が国際経営学会を設立 経営や観光の研究を通じ地域に貢献 【国際経営学部】	大分合同10/14	明豊中学野球部 野球道具600点をスリランカの子どもたちに贈る 【明豊中学野球部】
大分合同4/26	別府大で親子料理教室を開催 親子で仲良く料理に挑戦 【平川史子准教授(食物栄養科学)】	大分合同10/14	代替エネルギーで注目「バイオエタノール 新たな生産園を発見」効率アップ、コスト削減期待 【林義助教授(発酵食品科学)】
大分合同5/1	映画「ゼロからの風」を見て(「ひと」欄) 【原正信明豊中学高校指導監】	西日本10/19、ほか3紙	別府大と日田町が協定 食育、歴史研究、人材育成などで交流を 【学校法人別府大学】
大分合同5/8	別府大学創立60周年、「書道展」皮切りに1年間記念事業	大分合同10/18	最優秀賞に別府大の西澤教授 日田製を使った料理コンクール 【西澤千恵子教授(食物栄養科学)】
毎日5/15、大分合同5/14	別府大学文学部60周年を記念して書道展 【別府大書道研究室】	今日10/19	別府大生が古墳ガイド 30・31日第8回鬼の岩屋まつり
朝日5/17、大分合同5/21	竹田市と別府大学が協定 食品開発や観光研究で交流を強化 【学校法人別府大学】	朝日10/20、大分合同10/17	別府大生ら 自分たちで植えた稲を収穫 「大変…でも来年も挑戦」 【夢米棚田チーム(別府大)】
今日5/21	別府大学が世界史教育めぐりシンポ 海外ゲストを含め研究者500人 【山本晴樹教授、池口守准教授(史学・文化財科学)】	朝日10/20	なぎなた国体V 2人を学長表彰 【矢野貴司さん、板井奈津美さん(別府大学生)】
大分合同5/21	創立60周年を迎えた別府大学の文学部長 記念事業で陣頭指揮 【友永植文学部長】	朝日10/21、大分合同10/21	業に関する本を55冊 別府大にNPO贈る 【別府大学附属図書館】
朝日5/22、ほか3紙	「田染荘小嶋の農村景観」を国の重要文化的景観に指定 別府大が協力 【史学・文化財科学】	大分合同10/24	後藤名誉教授、平成22年度大分合同新聞文化賞 学術で受賞 【後藤宗俊名誉教授】
大分合同5/30	別府大で日本西洋学会を開催。歴史教育の現状と課題について議論 【史学・文化財科学】	大分合同10/27	別府大と豊後高田市 相互協力協定に調印 田染荘など歴史研究で連携強化 【学校法人別府大学】
大分合同5/31	大友氏遺跡 メタルの鉛タイ産か?大航海時代の流通示す別府大の研究 【平尾良光教授、飯沼賢司教授(史学・文化財科学)】	大分合同10/29、今日11/2	明豊高校野球部の山野選手 広島東洋カープの育成1位で氏名「ストレート生かしたい」 【山野恭介さん(明豊高校野球部)】
大分合同6/4、今日5/27	香りと食の文化学ぼう 8講座受講生募集 香りの博物館と別府大の公開講座	今日11/2	明豊高校男子バスケット部と元主将を別府市が表彰 創部2年で県大会優勝に導く 【バスケット部と壇上周平さん(明豊高校)】
大分合同6/5	夢見心地の地球式(「ひと」欄) 【原正信明豊中学高校指導監】	今日11/5	明豊高校看護科で第8回蔵儀式 明るく楽しいナースに 【明豊高校看護科】
毎日新聞6/5	別府大の発酵食品科学 工業への利用研究 DNA鑑定にも活用【好熱菌】 【吉川謙介教授、藤原秀彦助教(発酵食品科学)】	大分合同11/6、今日11/8	別府大で写真展 後世に伝えたい農村景観 田染荘の写真や農具 きょうから展示 【別府大学附属博物館】
大分合同6/8	別府大がバイオエタノール生産に成功 放置林が問題の竹を新たな燃料に 【森口充輝教授(発酵食品科学)】	大分合同11/7	別府大で石垣祭 テーマは「大志」 サークルの模擬店や成果発表など
今日6/8	別府大附属幼稚園と短大生と一緒にサツマイモのツル食べを体験 【附属幼稚園・短大初等教育科】	西日本11/7	大分吹奏楽団が演奏 九州一周駅伝出発地点の大分総局前で 【別府大学吹奏楽団】
大分合同6/10	別府大キャンパスに卒業生が出店 地元産の食を安くおいしく 【植木友里さん(卒業生)】	大分合同11/13	別府大で調理講習会 「坐来大分」総料理長が県産食材で 【短大食物栄養科】
今日6/10	明豊高校で韓国の教師が授業 朝鮮通信使などテーマに 【明豊高校】	朝日11/14	ユーモア漫画発信 別府大学が大賞 作品を募集中 【国際言語・文化科学マンガ・アニメーションコース】
大分合同6/14	真摯な姿勢忘れずに(「私の誌面批評」欄) 「聖殿」事件と報道被害に関連して 【飯沼教授(史学・文化財科学)】	今日11/15	駐日フランス大使講演 両国は特別な関係 絵画への関心の深さなど指摘 【香りの博物館】
大分合同6/14	別府大の学生ら平安時代の姿で 豊後高田市田染荘で御田植祭 【史学・文化財科学、短大地域総合科学科】	今日11/18	第1回別府大学国際経営学会が開催 「別府湾で風力発電を」など5つの研究発表 【国際経営学部】
今日6/15	別府大の学生らがゴミ拾いイベント ゴミを拾ってエコ活動 【阿部博光准教授・エコ研究会の学生(国際経営学部)】	大分合同11/23、12/16	川井郁子さんトークショー バイオリンと香りのハーモニー 【香りの博物館】
大分合同6/19	子育て支援 子ども自身に視点を 大分参議院選 県内の大学教授に聞く 【佐藤慶子准教授(短大初等教育科)】	今日11/24	別府大学附属幼稚園が創立50周年記念式典 昭和36年開園から半世紀 【附属幼稚園】
読売6/23	田染荘に希少トンボ 絶滅危惧I種など50種 別府大が調査 【佐藤さくらさん(歴史文化総合研究センター職員)】	大分合同12/9	「三浦安貞」に同感 名は字で 梅園の信条を尊重 【豊田寛三別府大学長】
朝日6/28、大分合同6/29	別府大サークルが米作りに初挑戦 稲作の手間、育てて研究 【夢米棚田チーム(別府大学)】	今日12/10	別府大で 掘ったイモで調理 園児と学生が一緒に調理 【浅田憲彦准教授(食物栄養科学)、附属幼稚園】
毎日7/6	毎日書道展 毎日賞に県内2人 毎日奨励賞に別大生3人 【別府大書道研究室】	大分合同12/11	別府大短大でキャンパス見学や調理実習 福祉学院高校生 【短大食物栄養科】
今日7/8	高大連携の体験学習 別府大と別府商業高校 講義や施設見学	大分合同12/12	別府大国際経営学部で研究発表 第1回国際経営学会 観光・環境・農業経済など5分野で 【国際経営学部】
大分合同7/10	「はやぶさ」のカプセルの中身(「ひと」欄) 【原正信明豊中学高校指導監】	大分合同12/13	一言の重み(「ひと」欄) 【原正信明豊中学高校指導監】
大分合同7/11、今日7/13	山根基生さんが読み聞かせ指導 来月9日、別府大学 【別府大学司書課程】	大分合同12/14	別府大で「親子料理教室」クリスマス料理に挑戦 親子60人が参加 【浅田憲彦准教授(食物栄養科学)】
大分合同7/16	別府大短大の学生ら手作り「子ども夏祭り」を開催、31日稲田公民館 一緒に遊びましょい 【短大保育科】	今日新聞12/14	別府大短大で日韓学生交流スピーチコンテスト ネット使った日韓遠隔授業 両国語で学生がスピーチ 【短大初等教育科】
大分合同7/22、今日7/22	別府大で外国の学生対象にセミナー始まる 日本文化を学ぶ場を提供 【別府大別科日本語課程】	毎日12/18	おおいだユーモア漫画大賞 来月22日発表 別府大学創立60周年記念 【国際言語・文化科学マンガ・アニメーションコース】
西日本7/23、今日7/17	泉都から漫画文化発信 60周年の別府大 作品を募集 【クニシロウ教授、田代シロウ教授(国際言語・文化科学)】	大分合同12/20	広瀬武夫と滝廉太郎の関係 史実と伝説 温かい交流 【辻野功男教授】
大分合同7/28	竹葉市と別府大が協定調印 社会貢献は大学の使命 「さらなる交流を」 【学校法人別府大学】	今日12/21	別府大短大の協力でパネルシアターなど楽しむ 県の子育て親子のサポート広場事業 【短大初等教育科】
大分合同7/28	第5回別府大学書道席上揮毫大会 書道に勤む高校生94人、課題に挑戦 【別府大学書道研究室】	大分合同12/25	障害児のための料理教室が成果披露 別府大短大で発表 【立松洋子教授(短大食物栄養科)】
大分合同8/7	「団結力と信頼感」の勝利(「ひと」欄) 【原正信明豊中学高校指導監】	大分合同12/27	地域づくりの指針となる特集を(「私の誌面批評」欄) 文化的景観で地域活性化 【飯沼賢司教授(史学・文化財科学)】
大分合同8/15、今日8/11	別府大で学術交流会 高校教員ら食物アレルギー学ぶ 【森井秀昭教授、浅田憲彦准教授(食物栄養科学)】	大分合同1/1	開学60周年を迎え次のステージへ 市町村との連携、留学生の確保にも力を注ぐ 【日高紘一郎理事長】
大分合同8/19	大分市と別府大学が協定 歴史や文化で連携 【学校法人別府大学】	大分合同1/11	後藤宗俊名誉教授の受賞を祝う 大分合同新聞文化賞 【後藤宗俊名誉教授】
大分合同8/20	上海万博で大分県観光PRする「大分おどり隊」のリーダー(「ひと」欄) 陳玉さん(短大地域総合科学科学生)	大分合同1/18	別府大短大で創作料理試作会 イノシシ肉を家庭にも 【村田勝教授(短大食物栄養科)】
大分合同8/21	日本語学校母国に設立 別府大大学院のスリランカ人留学生 【スチッチ・グナセカランさん(別府大大学院生)】	西日本1/21	ブロック紙の独自性確めに モニターの誌面評価 【辻野功男教授】
大分合同9/1、今日8/31	人命救助と容疑者逮捕 別府署が若者3人に感謝状 【大北匠史さん、早崎寛宏さん(別府大学生)】	大分合同1/22	【夢】を語る年に(「ひと」欄) 【原正信明豊中学高校指導監】
今日9/16	小泉武夫農大名表彰 18日まで別府大で公開講座 猛毒も消す発酵の力 【発酵食品科学】	朝日1/22、毎日1/25ほか4紙	大分ユーモアまんが大賞 相澤さん・山村さんが受賞 優秀作品HP公開 【国際言語・文化科学マンガ・アニメーションコース】
今日9/16	別府大で21日から公開講座「文字、ことば、そして伝へたいこと、伝えること」 毎週火曜日に3号館ホールで	朝日1/23、大分合同1/23等	自慢の作品160点 風潮げ熱い合う 別府大短大が恒例風潮げ大会 【短大初等教育科・保育科】
大分合同9/18	大分香りの博物館がリニューアル 香水展示スペース拡大 【香りの博物館】	今日1/26	別府大で国際セミナー開講 日本のこと知りたい 韓国から合計9校102人 【別府大別科日本語課程】
大分合同9/21、今日9/18	別府大・短大で留学生の秋季入学式 夢実現への第一歩	大分合同2/2、今日1/29	別府大文化財研究所の第14回セミナー 日山の早水台遺跡テーマに 【別府大文化財研究所】
大分合同9/22、今日9/22	別府大・短大の留学生と地域住民が「益語り交流」 【国際交流ゆたかのタベ】	大分合同2/10	別府大の卒業制作展 絵画、マンガなど集大成を披露 【国際言語・文化科学マンガ・アニメーションコース】
大分合同9/25、今日9/29	別府大短大が幼稚園・保育所の食育活動のお手伝い 講座スタート 整った設備、学生の能力生かし 【短大食物栄養科】	今日2/12	別府大助教の有吉宏明さん 東京海上日動賞 新人画家の登竜門で入賞 【有吉宏明助教(短大初等教育科)】
大分合同9/27	日中交流 積極的に伝えて(「私の誌面批評」欄) 【飯沼賢司教授(史学・文化財科学)】	朝日2/16	別府大のサークル 棚田の石積みで挑戦 春から米作り【夢米棚田チーム(別府大)】
朝日9/29	別大生が文学者の別府生活を調査 初回は木下利玄、隠れた足跡探す 【永松ますみさん、丸山志帆理さん(国文学科学生)】	今日2/18	26日に別府大でフォーラム「別府診断」 別府の将来に向け提言
		大分合同2/18	別府大でスポーツ・芸術・文化奨励賞授与式 アーチェリー部やなぎなた部を表彰
		大分合同2/19	人生の縮図(「ひと」欄) 【原正信明豊中学高校指導監】
		大分合同2/12	別府大の「路上大学」 「文化的景観とは」パネル展示 大分市ガレリアア町で開催 【飯沼賢司教授(史学・文化財科学)】
		毎日2/27、西日本2/27	別府大マンガ専攻が卒業制作展 ガレリアア町で「路上マンガプラザ」 【国際言語・文化科学マンガ・アニメーションコース】



Be-News 2011.Spring (別府大学通信 No.102)

編集 別府大学メディア教育・研究センター 広報部

発行日 平成 23 年 3 月 18 日

印刷 佐伯印刷株式会社
